



たくよう

平成27年12月

No.68

秋・冬号

障がい者支援施設
就労継続支援B型事業所
相談支援事業所
外部サービス利用型
共同生活援助事業所

新葉学園
しんよう
第1・第2 拓洋ホーム

発行者 社会福祉法人 拓洋会

薩摩川内市樋脇町塔之原4020

TEL:0996-37-2861 FAX:0996-37-2981

<http://takuyoukai.w.kobira.co.jp/>



▲管理棟・施設棟

『洋々たる未来へ』

B型事業所 事業課長兼サービス管理責任者

野村 昌弘

二十一年振りに阪神タイガースがリーグ優勝し、初の日本一に輝いた昭和六十年、ここ樋脇町で拓洋会は産声を上げた。その頃の私は、生まれ育った関西の学校に通う小学五年生。あれから三十年の時が経ち、縁あってこの地で障がい者支援に携わっている。人生は不思議なもので、時代の変化に伴って時として想像し得なかった。今、と遭遇する事があるが、それは決して偶然ばかりではなく、歩んできた人生の必然的な結果だったと後になってわかることがある。そして、それは人に限ったことではない。

「完全個室化、ユニットケア、職住分離、相談支援」利用者一人ひとりの特性に応じた支援を展開するためには不可欠な条件だと謳われてきて久しいが、現在では当たり前とも言える障がい者福祉の姿も、かつては理想と現実の狭間で苦悶し、実現への道程には高いハードルが幾多も存在していたため、実現はもとより想像すら容易ではなかった。

激変する社会情勢の道を歩みながら創立三十周年を迎えた。今、拓洋会は耐震化事業と題して完全新築移転を実現。厳しい時代でも利用者・ご家族・職員が長年培ってきた思いと皆様の力強い支えあってこそその結果である。

新しく生まれ変わった施設に朝日が燦爛と輝き、利用者の笑顔に手を振って応える。この先、福祉にとってどんなに厳しい時代が到来しようとも、私たちの思いがある限り、洋々たる未来を切り拓けると信じている。

第三十回拓洋会大運動会

支援員 玉利 直喜

去る十月二十四日(土)、第三十回拓洋会大運動会が大に開催されました。当日は天候に恵まれ絶好の運動会日和となりました。利用者の皆さんの入場行進から始まり、地域や来賓の方々、保護者の方々や薩摩中央高校のボランティアの方々の御協力のおかげで楽しく競技を進める事ができました。また、善福寺保育園の園児による遊戯も披露され、可愛らしい元気な姿を見て会場も和やかな雰囲気になり、運動会に華を添えてもらいました。

今年には施設移転に伴い、この地での大運動会が最後となり利用者はもちろんの事、地域の方々や来賓の方々からも「寂しくなる」と言つ声がかれました。施設移転後も色々なイベントを通じて利用者や家族、また地域の方々との交流や触れ合いの場となるように職員一同頑張つてまいりますので、よろしくお願い致します。



▲開会式 2015.10.24



▲龍めがけて「入れ!!」バ(°)ン 2015.10.24



▲白熱したレースε=ε=ε=「(°)ン」



▲【コップリレー】慌てず慎重に!! 2015.10.24

利用者 久留須 のどかさん
 十月二十四日、楽しみにしていたうんどう会がありました。私は初めてこつき持ちをしました。きんちようしたけど、ほんばんがばんじようすにできたと思います。走るのはほんでした。お母さんと一しょに出るきまぎもありません。お父さん、お母さんもりレーに出て、がんばって早く走っていたのでかっこいいでした。玉入れは四位だったけど、「ばん楽しかったです。」



▲善福寺保育園のちびっ子も頑張ってくれましたバ(°)ン



▲満面の笑みです Ψ(°▽°)Ψ



▲「白組、がんばれ~!!」



▲新競技【運命共同体】家族で力を合わせて頑張りました♪



▲【拓洋ウルトラクイズ】「正解は○かな~」「いや、×かな~」



拓洋会夏祭り

7/25

利用者 富来 玲奈さん

七月二十五日、拓洋会夏祭りがありました。いろいろな出店がたくさん出ていました。私は、ジューズ、フライドポテト、クレープを買いました。そして抽選会では初めて扇風機があつたのでとてもうれしかったです。鹿児島の方に持って帰り使いました。お父さん、お母さんはいそがしくて来れなかつたけど、来年、夏祭りがあつたらぜひ来てもらいたいです。



▲今年の進行は、FMさつませんたいとコラボしました(´▽`)



▲ふぐし大会に続き、夏祭りでも登場(≡^∇^≡)



▲八重咲同好会による華麗な舞い☆



▲今年も琉球國祭り太鼓の熱い踊りを見れて満足満足♪



▲職員も鯛魚国総本社の方とコラボ



支援員 原田 仁

今年台風十二号の接近に伴い実施が危ふれましたが利用者、職員の夏祭りに対する情熱で台風が逸れ、拓洋会夏祭りを盛大に開催する事が出来ました。

今年施設移転に伴い、現園庭で行われる夏祭りとしては最後という事もあり、これまでお世話になつた地域の方々に感謝を込めて例年以上に「気合」を入れて臨みました。

FMさつませんたいのパーソナリティー、山内美輝さんの軽快なトークで幕が上がリ、利用者の皆さんの個性豊かなカラオケで会場のボルテージは最高潮となり、ゲストの八重咲同好会の日舞に酔いれました。

続いて今回の夏祭りメインゲスト「鹿児島実業高校 新体操部」の演技が始まりました。この時の来場者数はすでに八百名を超え、超満員。「日本拍手を貰えるチーム」としてメディア等でも注目されている鹿実新体操部は全国大会の目前でありながら我が新業学園の為に出演してくださいました。噂通りのコミカルでダイナミックな演技を生で観る事が出来、大変感動しました。その後は昨年も出演し、好評であつた琉球國祭り太鼓の華麗な八チさばきで会場が二つになりました。

今年の夏祭りは、普段利用者の皆さんに食事提供をして下さっている「魚国総本社」の協力で様々な出店があり利用者の方々も楽しんでいただくことができました。想定外の来場者数により食材が足りなくなりご迷惑をおかけしました事を誌面を借りてお詫び致しますと共に、御出演頂いた皆様をはじめ、ご家族、地域の方々、ボランティアの「ひわき盛り上げ隊」の方々にご支援、ご協力を賜り、事故等もなく盛大に夏祭りを開催できたことを感謝申し上げます。



▲鹿児島実業高校新体操部の皆さん



▲ダイナミック&コミカルな演技で会場は大盛り上がり(◎o◎)/



▲今年はおかわい河籠も登場(°o°o°)

拓洋会 新葉学園の落成式・祝賀会を祝し

理事 山内 喜久子

美しい自然・静かな環境に開かれた障がい者支援施設「新葉学園」が開設。平成二十七年十一月二十五日大安吉日のこの佳き日に落成式・祝賀会に招待を受け、有難く出席。

拓洋会新葉学園は、昭和六十年四月開園してより早や三十年という年月が経過。建物が老朽化してきているところ、施設建物の一部が平成二十二年度「地区土砂災害警戒区域」として、防災上立地的に危険区域に指定を受け、樋脇町塔之原4020番地に擁していた土地に施設移転を考慮予定した。利用者が優先・安全・安心に生活ができる施設に改善されるようという理事長の思いから、日中活動・地域住民との交流の場として移転建設工事が実現。



【敷地面積】(二万七千七百五平方メートル)

● 設計監理…アシスト設計株式会社
● 施工…植村組株式会社・南日本運輸建設株式会社

式会社

● 工期起工…平成二十七年一月着工／平成二十七年五月竣工／平成二十七年十一月

● 落成・祝賀会に百二十名参加され、午前十時より施設内見学。

【施設内マップ】

● 施設棟 (二千九十八平方メートル)

ゆったりとした余裕ある広々とした間取りで廊下が広く、プライベートの保護された個室。採光を配慮した安らぎの食堂と人権を重視した利用者の憩う生活の場。

● 活動棟 (三百五十二平方メートル)

就労支援室・共同生活援助室・スタッフコーナー・休憩室・洗面室・身体障がい高齢者も利用できるトイレ・利用者が充実した楽しい作業室となる。

● パン工場棟 (四百六十四平方メートル)

衛生管理に重点を置き(食品・加工)、清潔区域に配慮し、自己責任が重大である。また、パン工房が設置され、地域の人達が期待しているとの情報がある。

【落成式典】午前十一時～ 司会…小川支援員

● 理事長挨拶●経過報告。

● 感謝状贈呈●アシスト設計株式会社・植村組株式会社・南日本運輸建設株式会社：【感動】
● 来賓祝辞●薩摩川内市長代理・県議会副議長代理・知的障がい福祉協議会会長：【共鳴】

● 祝い五つ太鼓●小牟田流五つ太鼓(三名)：【共感】

● 乾杯音頭ではじまり、旧友との交流・話題・御馳走で満腹・会場が盛大で賑わった。

【祝賀会】午前十一時半、



振り返り

「光陰矢の如し」という諺がある。

平成十五年四月～平成十九年三月まで御縁があり、理事長兼施設長という大役を背負い着任。県に御挨拶の際、「施設長の資格取得を!!」と要請があり、唖然となった。二年間の通信講座、毎月テキスト・レポート・スクーリング。まだ福祉の環境に馴染めてないところに学習が出来たこと、苦しみでもあったが喜びでもあった。

医療一筋で国立病院・看護専門学校・最後に市民病院の看護部長として従事した。今後は「医療と福祉」の懸け橋になるように誓い、責任感がのしかかってきた。福祉も変換期にあり、措置制度から支援費制度への転換期であった。

「利用者の自立へ」主体的に自分の生活の質を追求していく手探りの中、自立方針として

①ホームヘルパー三～二級取得(県との交流・研修カリキュラム作成・実施・実現)するも現実には厳しかった。課題も山積み…。

②施設内もガイドライン・マニュアル・利用者の自治会が発足。職員施設内研修会と自己研鑽に努めた。

新しい時代を目指し、伝統と理念・目標を守り、拓洋会発展と大きく飛躍されることを期待し、職員が働きやすい環境と使命感を持って心からおもてなしを実現して頂き、利用者・保護者の安心につながることを祈念して!!

ありがとうございました。

第二十四回 北薩地区 ふれあいスポーツ大会

利用者 敷根 春子さん

9月4日

北薩地区ふれあいスポーツ大会に参加しました。

私は百メートル走と立ち幅跳びに参加しました。あまり練習ができませんでしたが、自分では満足できる結果が出せたので良かったです。

今度のふれあいスポーツ大会ではもつと良い結果が出るように、毎日走ったりがんばってトレーニングしてきたえようと思います。



▲ 熱いレースとなりました!!



▲ 遠くまで飛んだかな～?



第十回 薩摩川内市 ふれあい障害者福祉大会

支援員 藏前 美樹

7月17日

七月十七日、サンアリーナにて「薩摩川内市ふれあい障害者福祉大会」が行われました。学園からは利用者二十二名、職員四名でダンスを披露しました。全員揃っての練習がなかなか出来ませんが、皆さん緊張しながらも練習の成果を十分に発揮する事が出来たと思います。また、他の施設の利用者の方とも話し、良い交流の場となりました。午後からのレクリエーションも楽しまれ、終日笑顔で過ごされていました。私自身もダンスに参加させて頂き、良い経験となりました。



▲ ふれあい障害者福祉大会



▲ 今年は妖怪ウォッチのダンスを披露



施設内マップ



思い出アルバム

写真は楽しい活動の一部です



△ 消防署見学



△ 植脇中サマーボランティアの皆さん



△ 新しいトラクターが仲間入りました☆
皆さんよろしくね~(^O^)



△ お盆在園者外出「お肉にお刺身にと美味しそう~」



△ 施設職員親善ソフトボール大会
『優勝しましたヨ』



△ 台風15号による被害 ☹(ノ・田・:)))ノ



△ 薩摩中央高校の実習生の皆さん



△ 市比野温泉区遊湯クラブ
グラウンドゴルフ交流会

平成27年度 鹿児島県強度行動障害者 支援者養成研修(基礎研修)報告



支援員 小川 淳

11月9日から10日にかけて鹿児島サンロイヤルホテルにて鹿児島県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)が開催されました。今回の基礎研修のねらいは「1. 支援手順書に書かれている内容とその根拠を理解する。2. 詳細な手続きまでチームプレイを徹底する。3. 確実に、実直にルールを守り続けること」が挙げられ、2日間の講義、演習を通して強度行動障害を有する方への理解、支援について具体的なイメージを持つことが出来ました。

はじめに強度行動障害者養成研修の位置づけや重度加算の見直し等の説明があり、強度行動障害の定義を含め、支援の枠組みを学びました。情報の収集は視覚的な手がかりだけで推測できるが、日頃から話しやすい環境や話が出来場を設定し、組織として取り組む支援の中で生きた情報がとても重要であるとの説明がありました。また、強度行動障害の症状に対して薬物療法や入院等の医療的アプローチによる重要性や福祉と医療の連携に現場の生きた情報が不可欠で、私達の支援+医療的ケアを組み合わせて対応することが重要であると説明がありました。

強度行動障害への支援とはすなわち重度の知的障害と自閉症のある人々への支援であり、強度行動障害は「周囲

を困らせる」行動ではなく、本人が「困っている」ことのサインであることから、強度行動障害者への対応の難しさから支援に行き詰まって虐待に発展するケースもあると報告を受け、強度行動障害者の行動の背景をしっかりと理解し適切な対応が求められる。人権侵害にならないよう正しい知識や高い人権意識を持つことが必要で、支援に当たる際は6つのスタンダード(6つの有効な支援の手法)を共有しながら効果的かつ継続的に取り組みたいと感じました。

最後にキルギス語を使ったユニークな演習を通して、相手に与える印象やわからない事へのストレス等の行動障害者の気持ちを理解したり、モデル事例に沿って行動の背景と捉え方を学びました。コミュニケーションを苦手とする自閉症の人たちへの手段として特に視覚的構造化(目で見える形)が有効で、ストレス・混乱・問題行動の軽減につながっており、行動の背景を分析して、分析した結果に相応しい支援の内容・構造化を用いながら活動パターンを作っていく事が大切であると話がありました。

今回、基礎研修修了者に求められる役割を十分理解し、次回の実践研修に備えて学んだことを活かしていけるよう業務にあたりたいと思います。

福祉施設における「食の安心・安全」推進(施設見学)研修会

業務課長 下川 明彦

9月4日、一般社団法人がごしま障がい者共同受注センター主催により、福祉施設における食品製造、商品開発、品質管理、販売運営の事例紹介や、食の安心安全に対する公的機関の取り組み紹介を目的とした当研修会が開催されました。施設①就労支援事業所ティンカーベル(垂水市柘原)・パン製造(職員2名、利用者5名)、小売店・カフェ運営(職員2名、利用者1名)の構成にて、食パン・菓子パン・調理パンの全50アイテム、日販300個。餡・チョコ等基本系を主体として、黒糖や紫芋等の地域特産品を織り交ぜた商品内容でした。屋外石窯設置や店舗の自作広告等、手作り感を演出するオリジナル性の高さが目を引きました。施設②障害福祉サービス事業所セルプ花の木(南大隅町根占)・農事組合法人根占生産組合と社会福祉法人白鳩会の複合法人にて、セルプ花の木はその食品加工販売施設です。45ヘクタールの広大な農地を持ち、茶業・養豚・水耕栽培を主として、灌漑・機械・施設化を進めている同法人は、ただ福祉施設を「運営」するだけではなく、福祉・農業・観光を合体させた地域活性化を基本コンセプトにして、経済的にも自立できる「経営」を目指しているとのこと。畜産加工場(生餃子・豚枝肉解体等)を主な製造施設とし、職員約10名・利用者約40名で構成され、製造品を提供するレストランやパイロットショップを経営し、通販も好評。自営農場の安心安全の取り組みやおいしさをパッケージデザインで巧みに訴求し、また農業機械整備、水耕栽培器具作製、豚肉解体熟練作業等に専門技術者を雇用し、他者に依存しない効率的な経営を目指していました。施設③鹿児島県大隅加工技術研究センター(鹿屋市串良町細山田)・県内の農産加工の高付加価値化が急務であること、センターの立地する肝付管状地区は農地灌漑が進んでいること、規格外品の利用が必要であること等の背景を受け、素材提供型の農業から一次加工等による高付加価値型農業の展開を図るため、新たな加工・流通技術の研究・開発を行うとともに、一般事業者による加工品の試作・研究・開発や販路拡大を支援する施設でありました。施設は今年4月に開所し、研究員11名(県職員)が現時点で110件の

相談と40件の試作開発に対応。加工ライン実験施設、高次加工開発実験施設、流通技術実証施設、企画・品質管理支援施設の4施設にて構成されていました。

今回の研修に参加して、パン工場として、①基本的な物を安定的に安価に製造するのはもちろんですが、地域特性原料使用や国産等のこだわり原料使用などの訴求がより重要で、「ここでしか買えない」という必然性のある新業学園ブランドの確立を行いたい。②新施設に移転するにあたり、品質保証体制を充実させるべく、検査強化・消費期限検証・新食品表示法対応等を確実に進めたい・・・と感じました。

福祉工場であるからこそ食品製造販売についての法令順守・製造倫理保持は当然のことです。また、利用者と職員が協力して夢のある新製品を開発する楽しさを味わうことも重要です。その為にこの研修で学んだことを生かしていきたいと思えます。



▲ ティンカーベル 店内



▲ セルプ花の木
精肉加工施設



◀ ティンカーベル
店舗外観

新利用者紹介



B型事業所 久木留 匠さん
初めまして久木留匠といいます。10月末から新葉学園を利用させていただきます。こちらを利用するのは、一人でとりあえず生きていく力をつけるためにかよわせていただいております。色々迷わくをかけると思いますが、これからよろしくおねがいします。

新任職員紹介



B型事業所 業務課長 下川 明彦
9月よりパン工場に勤務しております下川明彦です。利用者の皆さんと一緒に安心安全で美味しいパンをつくっていきたく考えておりますので、宜しくお願い致します。



世話人 南雲 静代
10月1日より第一拓洋ホームの世話人として勤務する事になりました南雲静代です。一日も早く皆様のお役に立てるように努力してまいりますので、よろしくお願い致します。

師走。旧暦で十二月の事を呼ぶが、当学園においては初秋から師走に匹敵するほどの忙しさであったのではなからうか。そんな慌ただしさもようやく一段落し、無事新施設で新たな年を迎える事が出来る。
綺麗な施設に利用者・職員共に心躍る様子が見られるが、ただ眼前の真新しい事ばかりに目をとられず、古きを重んじ、何事においても新しい物事とのより良い融合を目指し、これから新しい施設作りが出来ればと思う。
皆様も年末年始を迎えるにあたり、どうかお体には気を付け、よい年をお過ごし下さい。
(池田)

編集後記

【平成二十七年 広報委員会】

利用者	正岡 和成さん
職員	福原 ひとみさん
	池田 俊彦
	小川 淳
	宇田 千鶴
	三輪 優子



平成二十七年 施設内研修

第三回

平成二十七年九月三日(木)

テーマ「知的障害者関係施設

新任職員研修 ～伝達研修～

講師 玉利 直喜

テーマ「九州地区知的障害関係施設

職員研修 ～伝達研修～

講師 小川 淳

久保 真彩



▲ 伝達研修



▲ 人権擁護研修

第四回

平成二十七年十一月五日(木)

テーマ「人権擁護研修」

講師 人権擁護委員会

支援員 乙須 恒平

お知らせ

【寄付金・寄贈品】

平成27年11月16日、当法人 山内喜久子理事より寄付金を頂きました。この貴重なご寄付は、学園のために大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



<表彰>

この度、当法人が鹿児島県食品衛生協会より食品衛生優良施設として表彰を受けました。

<退園者> 白濱 誠さん(10月)

<退職者> 世話人 徳地 朋子(9月末)